目次

Ⅰ　はじめに

1 総合計画とは …… 2
2 計画の構成 …… 2
3 計画策定の視点 …… 3
4 松本市の特性 …… 4

Ⅱ　基本構想2030 …… 7

Ⅲ　第12次基本計画

1 計画策定の前提となる社会背景 …… 12
2 計画の位置付け …… 14
3 計画の期間 …… 14
4 計画策定の視点と構成 …… 15
5 計画の推進に当たって …… 17
6 主要指標 …… 18
7 重点戦略 …… 20
8 各論
施策の体系 …… 24
基本施策
分野1　こども・若者・教育 …… 28
分野2　健康・医療・福祉 …… 42
分野3　住民自治・共生 …… 56
分野4　環境・エネルギー …… 70
分野5　都市基盤・危機管理 …… 78
分野6　経済・産業 …… 102
分野7　文化・観光 …… 112

Ⅳ　松本市人口ビジョン …… 123

Ⅴ　付属資料 …… 147

はじめに

1 総合計画とは …… 2
2 計画の構成 …… 2
3 計画策定の視点 …… 3
4 松本市の特性 …… 4

Ⅰ

1　総合計画とは

総合計画は、総合的かつ計画的に市政運営を行っていくために、まちづくりの方針を定め、目指すまちの姿やまちづくりの方向性などを市民と共有するものです。また、松本市において策定する全ての計画の基本となるものであり、分野別の個別計画の策定に当たっては、総合計画との整合性が図られることとなっています。

2　計画の構成

総合計画は、「基本構想」、「基本計画」及び「実施計画」で構成されています。

基本構想

まちづくりの基本理念や目指すまちの姿を定めるもので、市政運営の指針となるものです。

基本計画

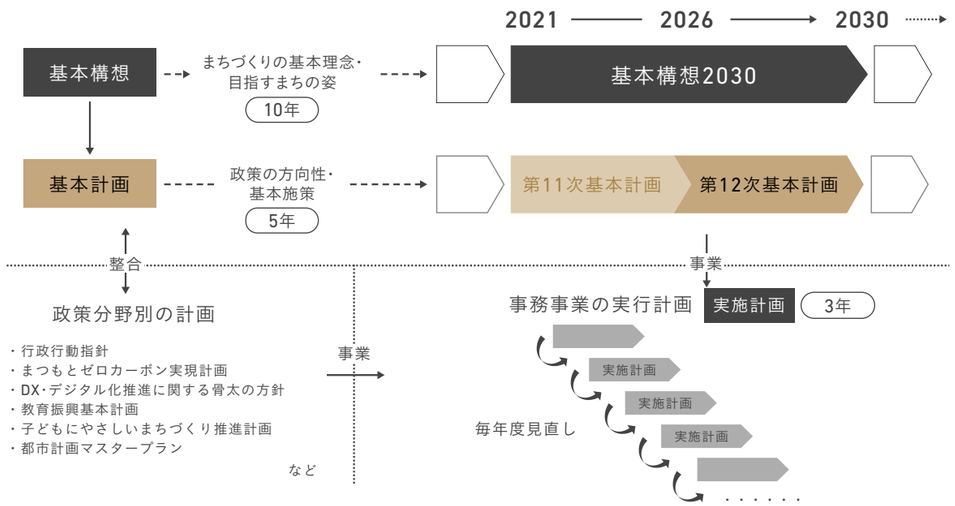
基本構想に掲げる基本理念や目指すまちの姿を実現するための、具体的な政策の方向性や基本施策を体系的に示すものです。

実施計画

基本計画に掲げた政策の方向性や基本施策に基づく、具体的な事務事業の実行計画となるものです。

なお、実施計画については、ローリング方式により毎年度見直しを行いながら策定することから別に提示します。

総合計画



3　計画策定の視点

市民に身近で分かりやすい計画とします

総合計画は、行政にとって市政運営の指針であるとともに、まちづくりの方向性などを市民と共有するためのものです。基本的な理念や目標、方向性については前期計画を継承しつつ、社会背景の変化や前期計画の成果と課題を踏まえて内容をより精緻化することで、市民にとって身近で分かりやすい計画とします。

具体的な行動につながる計画とします

まちづくりの主役は市民一人ひとりであり、それぞれの主体的な取組みが重要です。また、様々な困難に立ち向かい大きな変革を成し遂げるためには、一人ひとりの意識や行動が何よりも重要です。そこで、それらの主体的な取組みを支える施策を整理し、市民と行政が理念と方向性を共有した上で、具体的な行動につながる計画とします。

組織や分野を越えて取り組む計画とします

市民一人ひとりの行動を支えるためには、個別分野における現状と課題を的確に把握し、施策の方向性を深めることが必要です。一方で、行政課題が複雑化する中で、従来の縦割りを越えた横の連携がますます重要になっています。そのため、後期計画で重点的に取り組むべき視点を共有し、関連施策を整理することで、組織や分野の枠を越えて横断的に取り組むことができる計画とします。

SDGsの達成に寄与する計画とします

平成27（2015）年9月の国連サミットで全会一致により採択されたSDGs（持続可能な開発目標）は、国際社会の共通目標です。「誰一人取り残さない」持続可能で、多様性と包摂性のあるまちの実現に向け、SDGsが掲げる17の目標は、ジェンダー平等やユニバーサルデザインの推進など、松本市の取組みとも多くの共通点を有しています。経済・社会・環境の広範な課題に統合的に取り組むことにより、SDGsの達成に寄与する計画とします。

4　松本市の特性

位置・面積

松本市は、長野県のほぼ中央から西部に位置し、北は安曇野市、南は塩尻市、東は上田市、西は岐阜県高山市などと接しています。東西おおむね52km、南北おおむね41kmにわたり、面積は、978.47㎢で県内最大の市域です。

【面積】　978.47㎢
【標高】　592.21m
【北緯】　36度14分17秒
【東経】　137度58分19秒
（基準　松本市役所）

地勢

市の東部には、標高2,000mの美ケ原高原を望み、西部には標高3,000m級の峰々が連なる北アルプスの山岳が広がります。標高最高地点は3,190mの奥穂高岳、市中心部との標高差は約2,600mもあります。日本の屋根と言われる山岳地帯から松本平と呼ばれる肥沃な盆地まで、変化と魅力に富んだ多彩な地勢が形成されています。

市内には梓川が貫流し、上流域は北アルプスの山岳地帯にあって起伏の多い急峻な地形となっており、中流域は山麓地帯と河岸段丘が広がり、下流域は多くの河川からなる扇状地が形成されています。また北部には、周囲を山に囲まれた中に、山麓からの河川に沿って耕地が開けている地域があります。

四季

気候は、日較差の大きい典型的な内陸性気候です。湿度が低く、さわやかな空気と澄みわたった空、長い日照時間に恵まれています。標高の高い上高地や乗鞍高原、野麦峠、美ケ原高原などでは冬季の積雪量も多く、厳しい寒さとなります。

沿革

平安時代には、信濃国府が松本の地に置かれていました。中世には信濃守護の館の所在地として、また江戸時代には松本藩の城下町として栄えました。

明治40（1907）年5月1日に市制を施行し、平成19（2007）年には市制施行100周年を迎えました。

明治期からは製糸業を中心とした近代産業が勃興し、大正3（1914）年には日本銀行松本支店が開業するなど、長野県における経済・金融の中心地となりました。近代工業化は、第二次世界大戦中の工場疎開を契機として進み、さらに昭和39（1964）年に内陸唯一の新産業都市に指定されたことをきっかけに、電気・機械・食料品等の業種を中心に発展してきました。近年では、産業基盤の確立と地域経済発展を目指し、知的集約型企業の拠点として整備した新工業団地を中心に、更なる産業集積が進んでいます。

商業は、江戸時代から『商都松本』とも称されてきたとおり、中南信の商圏の中心として大きな商業集積を形成してきました。農業は、昭和30（1955）年代までは専業農家を中心に稲作、畑作、養蚕、酪農などが営まれていましたが、その後の高度経済成長期には、農業従事者の他産業への流出や兼業化などが顕著となり、農家戸数は減少しています。一方で、近年では気象条件を活かした高品質な野菜、果樹、花きを中心に、農業産出額が増加傾向にあります。

高速交通網については、平成5（1993）年に長野自動車道が全線開通し、平成9（1997）年には北陸地方への通年通行を可能とする安房トンネルが開通しました。現在は、中部縦貫自動車道（松本波田道路）の事業化が進められています。また、長野県唯一の空の玄関口である信州まつもと空港は、令和6（2024）年にジェット化30周年を迎え、県による国際化と機能拡充が進められています。

松本市は、伝統的に教育や文化を重んずる気風を有しています。明治6（1873）年の開智学校の開校に始まり、大正期には松本高等学校（旧制）が招致されました。戦後はスズキ・メソードや花いっぱい運動が発祥し、平成4（1992）年からは小澤征爾マエストロが立ち上げたサイトウ・キネン・フェスティバル松本（平成27（2015）年に、国際的な認知度の更なる向上などを目的に、セイジ・オザワ 松本フェスティバルに名称変更）が毎年開催されています。平成25（2013）年には、健康寿命延伸都市宣言を行い、市民一人ひとりの命と暮らしを尊重するまちづくりを進めています。

また、地方分権を推進するため、平成12（2000）年には特例市の指定を受け、その後は施行時特例市として周辺市町村と連携しながら、個性豊かで持続可能なまちづくりに取り組んできました。

平成17（2005）年4月には四賀村・安曇村・奈川村・梓川村と、さらに平成22（2010）年3月には波田町と合併し、全市一体となった市政運営を進めてきました。さらに平成26（2014）年度には、市内全35地区に地域づくりセンターを設置し、地域を基盤としてそれぞれの地域課題を解決する仕組みを整えました。そして、令和3（2021）年4月には中核市に移行し、県から多くの権限移譲を受ける中で、地域を牽引する都市として新たなスタートを切りました。

松本らしさを象徴する「岳都、楽都、学都」三ガク都

○ 3,000m級の峰々が連なる日本アルプスを擁し、多くのアルピニストを迎える　岳都・松本
○ バイオリンの調べやセイジ・オザワ 松本フェスティバルに代表される　楽都・松本
○ 古くから学問を尊ぶ進取の気質あふれる　学都・松本